

離れた心 いま向かい合う

震災16年

〈1面続き〉

■最後の日記―母

母の小学校教師、植松なおみさん(61)は、中学3年生の長女、素さん(当時15歳)が「全寮制の看護系高校に行きたい」と言い出したとき、賛成しなかった。それでも揺るがない希望を結局は認め、阪神大震災前日の1月16日に願書を出した。「受験まで、応援しよう」と、家族で話し合った。翌日の地震で素さんが亡くなった後、夫(64)と瓦や土をかき分け、遺品の日記帳を捜し出した。最後の16日の欄に「やっと家族が1つになったみたいだ」とあった。



「秋の前には道があって、あの子は先を見据えて歩き始めた。うれしいうす」と話す植松なおみさん

「亡き姉思い、次女は苦しんだ」



「母は強い人。家族とのかかわりを取り戻そうとしていたんですね」と、当時を振り返る植松秋さん(いずれも兵庫県芦屋市で) 〓守屋由子撮影

その家族を、バラバラにするわけにはいかない。頑張つて、残された次女と長男と、ケーキを作ってクリスマスや誕生日を過ごすとした。でも、食卓を囲めば皆が「そこにいない1人」を思う。次第に祝いの事のない家になっていった。

□地雷原の家―次女□

素さんの二つ下の妹、秋さん(29)は、地震の後、母に言われてケーキを作った姉には、親に言えない悩みも打ち明けた。「悩んでもしょうがないよ」とカバリと言ってもらえば、ほっとした。その姉がいないのに、楽しい生活に戻るわけがない。

家で、しゃべらなくなつた。どんなに何気ない話で

「母は家族のために闘っていた」

も、家族の心の中で、姉の思い出につながるかもしれないと思うと怖くて、地雷原にいたようだった。中学、高校と、部活や自治会活動に打ち込んで、深夜まで帰らなかった。

「お姉ちゃんじゃなくて、私が死ねばよかった」。どうしたら姉の代わりになれるのか、と考えていた。

■素と秋―母

「わがままでほんやりした素と、しっかり者の秋」。そう思ってきたのに、震災後、秋さんの様子が変わった。運動会を見に行った時、着替えた制服を脱ぎ散らかしていた。あの、洗濯前の服までたたんでおくような子が。大雑把だった姉をまねているようだった。「素を思い出させないで」。涙が出て仕方なかった。

秋さんは大丈夫だと思っていた。弟(25)は、震災後に過呼吸が出て心配したが、秋さんは元気に見えた。異変が起きたのは、10年以上たってからだった。

□PTSD―次女□

家を出て徳島の大学で心理学を学んでいた5年前、突然、何をやるのもだるく、食事さえおっくうになった。少しの物音で涙が止まらなくなり、震度3の地震でパニック状態になった。心的外傷後ストレス障害

(PTSD)。大学で習っていたのだ、と。回復し、た通りの症状だった。

入院した病室で父に、だれにも言わなかった思いを打ち明けた。「私がお姉ちゃんを殺した。罪悪感をずっと持ってた」。地震直後、家族の中で一番に家の外に逃げたことを、気に病んで

いたことを、自分で初めて直視した。父は「ぼくもそ

うだ」と言い、2人で泣いた。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

2年間治療を受け、母のことを考えた。無理にケーキを作ろうとした母も、だんなを取り戻そうと闘った。

「神戸の団結 ハイチにも」 震災障害者と交流

地震で右脚失った少女



阪神大震災の震災障害者らと交流するエズナールさん(左)(神戸市中央区で)

気づかなかったことを不思議に思っていると、夫が、「前は、震災直後だったんだ」と教えてくれた。山を見上げる余裕もなかった16年前から、なんて遠い道を来たのだろうか、と涙があふれた。

植松家の1月17日は、法要もなく静かに過ぎる。今年も自分は小学校に出勤し、秋さんも、大学で研究補佐の仕事がある。

秋さんにはまだ心配が尽きない。でも、何かあったら、「帰っておいで」と言っ

てやりたい。家族のもとに。神淡路大震災よろず相談室(神戸市)などとの交流会で、エズナールさんは

震災障害者らに「突然体が不自由になり、どう乗り越えたの」と質問。約60時間

生き埋めになり、右脚に障害が残る植村貴美子さん(80)は「体は不自由だが、

心は自由だから明るく生きて」と励まし、エズナールさんは「神戸の皆さん

のように団結してハイチを復興させたい」と話した。

短期集中 合宿免許 全国67の公認校
案内書無料急送
普通車(AT車) 最短14泊、(MT車) 最短16泊・10,500円増(税込)
¥209,500~ (税込) ローン可(3~36回)
(入学金・教習費・検定費・宿泊費・交通費等含)
教習所・時期により金額が異なります。各種免許有

合宿免許の 合宿教習予約センター
0120-44-1859 大阪支社 / 06-6356-6640
www.menkyo.co.jp 合宿教習 検索

たと発表した。ネクタイの持ち込みは禁止されており、入所時の手荷物検査でも見つからなかったという。同刑務所は「誠に遺憾。再発防止に努める」とし、持ち込まれた経緯を調べ

発表では、15日午前1時40分頃、被告が、高さ約70センチの位置にある洗面台の蛇口にネクタイを結び、座り込むようにして首をつつているのを巡回中の職員が発見。病院に搬送したが、同日深夜に死亡が確認された。室内のノートに遺書とみられるメモがあった。15分前の巡回では、不自然な点はなかったという。